

【どの子ども大事】～居場所・かわり・感動体験～ 学校だより



# ポプラ

令和2年度  
第6号  
令和2年  
8月28日発行  
東大和市立  
第四中学校

「新しい学期」「新しい生活」コロナに負けない2

校長 住吉 豊

2週間ほどの短い夏休みでしたが、各御家庭で生徒はどのように過ごしていたでしょうか。

このような状況が続く中、ストレスの積み重なり等から2学期のスタートを心配しておりましたが、特に大きく変わった様子もなく休み時間や部活動では元気に過ごす様子が見受けられます。

ここ東大和市における新型ウィルスの感染状況は、区部や他の市と比べて悪くありません。それでも今後長期にわたって考えた時には拡大していくものと思われまます。引き続き御家庭でも手洗い、うがいの励行をご指導いただくとともに、「いつかは自分もかかるかもしれない」という想定のもと、り患してしまった人々に対する思いやりを忘れぬようご指導いただければと思います。

下に始業式での放送朝礼での話を載せました。残念ですが、まだ全校集まって朝礼等ができない状況にあり、当面このような形で実施の予定です。

## 2学期始業式の放送朝礼より

皆さん、おはようございます。

暦の上では立秋を過ぎて秋になりましたが、連日、熱中症に気を付けなければならないような、残暑が厳しい中での2学期のスタートになりました。

自分もそうですが、周りの事を考えると、生活にも色々と制約を感じていることと思います。

そのような中においても、自分が今できること。しなくてはならないこと。また、できないこと。してはならないこと。をしっかりと考えて日々の学校生活や家庭生活に取り組んでみましょう。

さて、先日、テレビのスポーツニュースを見ていたら、夏の甲子園交流試合の話をしていました。

例年、夏の風物詩でもある甲子園の夏季大会は無くなりましたが、中止になっていた春の選抜大会に出場する予定だったチームを甲子園球場に招いて、1試合限りの交流戦を実施する事になりました。たまたま、東北福島県から21世紀枠で選ばれた県立の磐城(いわき)高校と、東京代表の私立の国土館高校の対戦の話でした。

結果は国土館高校が4対3で勝利したのですが、磐城高校は県でも3本に入る進学校で、毎年多くの生徒が国立や私立の大学に進学します。野球のうまい選手を集めているわけでもなく、練習に多くの時間を割いたりもしていません。監督の先生の下、スローガンに「プレイハード」という言葉を掲げ、皆が練習に、勉強に、その時その時のやるべき事に、全力を傾けるということを目標に取り組んできたそうです。

春の選抜を決めたときの監督の先生は、今春他の高校に異動したのでベンチで采配を振るうことはできませんでした。しかし、特別に許可された試合前のノックでは選手への愛情を込め、試合中は応援席から選手の成長した姿を見て感動したそうです。結果は惜しくも1点差の負けでしたが、選手達からは、やりきったという思いで、「満足しました」という声が聞かれました。

「プレイハード」はこの野球部の目標でしたが、皆さんの2学期の目標は何でしょうか。すでに、この一年の目標を決めて頑張っている人も多いと思いますが、もし、この2学期から新たなスタートを切ろうと考えている人は、是非自分なりの目標を定めて頑張ってみましょう。